

# 極秘機関「陸軍登戸研究所」は こうして明らかになった!



1945

敗戦



1980

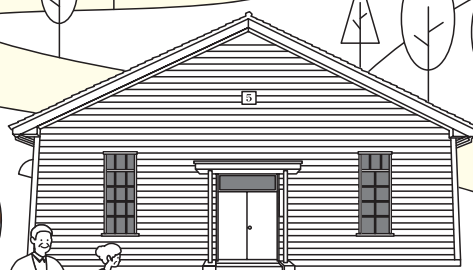
登研会設立



登戸研究所跡碑

1989

登戸研究所跡碑建立



1980-2000

登戸研究所掘り起こし  
および保存運動

2010

資料館設立



オンライン  
開催は  
こちらから



2021 **1/13** 水 >> 2021 **7/3** 土

【開館時間】10:00~16:00 【休館日】日曜~火曜、2021年1月16日(土)、2月5日(金) 【入館料】無料

【展示開催場所】明治大学平和教育登戸研究所資料館およびオンライン <https://www.meiji.ac.jp/noborito/event/index.html>

後援：川崎市、川崎市教育委員会

## 特記事項

新型コロナウイルス感染拡大防止のため一般の入館を制限しています。ご来館前に当館HPもしくは当館までお問い合わせください。また今後の感染状況により臨時休館する場合がございます。

## 明治大学平和教育登戸研究所資料館

The defunct Imperial Japanese Army Noborito Laboratory Museum for Education in Peace, Meiji University

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1 明治大学生田キャンパス内 TEL/FAX 044-934-7993

<https://www.meiji.ac.jp/noborito/>

<https://www.facebook.com/Noboritoshiryokan>

[https://twitter.com/meiji\\_noborito](https://twitter.com/meiji_noborito)

[https://www.instagram.com/meiji\\_noborito/](https://www.instagram.com/meiji_noborito/)

Web



Facebook



Twitter



Instagram



- ・ 無断複写複製・転載は禁止です
- ・ 個人情報保護のため、資料の一部を加工しています
- ・ 展示資料の一部は資料館での展示のみとしています

# ごあいさつ

明治大学平和教育登戸研究所資料館は、2010（平成22）年3月29日の開館以来、今日までに8万人以上の皆さまにご来館いただき、大学内外から多くの反響をいただいております。

このたび本資料館では、《極秘機関「陸軍登戸研究所」はこうして明らかになった―登戸研究所掘り起こし運動30年の歩み―》と題して第11回企画展を開催するはこびになりました。

日本陸軍の秘密戦のための兵器を研究・開発していた登戸研究所に関する資料・データは、敗戦時にことごとく焼却・隠滅されました。また、研究所関係者も戦後永らく口を閉ざし続け、登戸研究所の秘密は完全に消滅するかに思われました。

しかしながら、今から30年以上前、1980年代の終わり頃に、川崎市と長野県伊那地方において、地域の市民・教員・高校生たちによって登戸研究所掘り起こし運動が始まりました。また、ちょうどその頃、永らく口を閉ざし続けていた登戸研究所の関係者も、親睦団体である「登研会《とけんかい》」を結成し、少しずつ集うようになっていました。

市民・教員・高校生たちは、研究所関係者のもとを訪ね、信頼関係を築きながら、聞き取り調査を続け、登戸研究所で何が行われていたのかを少しずつ明らかにしていきました。こうした活動の過程で、登戸研究所関係者も後世に戦争の歴史を残すことの意義を真剣に考えるようになっていったのです。そして、明治大学にも登戸研究所の歴史を研究するグループが生まれ、市民・「登研会<sup>とけんかい</sup>」・大学関係者が連携して登戸研究所掘り起こし運動が展開されるようになったのです。三者が連携した調査活動は、2010年3月の明治大学平和教育登戸研究所資料館開館へと結実しました。

今回の企画展ではこうした掘り起こし運動を振り返り、どのように登戸研究所の秘密が明らかにされていったのか、資料館設立に至る明治大学内における議論を検証し、これからの戦争遺跡保存・活用のあり方を考えてみたいと思います。

なお、企画展は、例年11月から翌年3月にかけて開催することにしておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、2020年度は11月からようやく学内関係者に限った開館となりました関係上、1月から7月までの開催とさせていただきます。

2021年1月13日

明治大学平和教育登戸研究所資料館館長 山田 朗

# 第一章 登研会の発足と 「登戸研究所跡碑」 建立

## 1 敗戦と登戸研究所員

終戦となり、登戸研究所も GHQ の事情聴取を受けました。帝銀事件『捜査手記』からは、戦後直後は戦犯になることを恐れ、GHQ に全てを話さなかった元所員の姿が認められます。しかし、結果として登戸研究所からは戦犯は出ませんでした。さらに、米国と元所員の間には「ギブ・アンド・テイク」の関係が築かれ、元所員の一部は米国の求めに応じ、米海軍横須賀基地内で米国の秘密戦に携わるようになります。こうして訴追されないことがわかった元所員らは、徐々に自身の研究成果や作戦の功績を世間に示すようになります。

次表の登戸研究所関係者の体験記などが掲載された雑誌・書籍一覧をご覧ください。1951（昭和26）年初頭には風船爆弾関係者が風船爆弾の全貌を雑誌で語っています。また、偽造紙幣謀略にかかわった岩畔豪雄、<sup>いわくろひでお</sup> 阪田誠盛<sup>さかたしげもり</sup>も1950年代には週刊誌に自らの功績を語ります。特に阪田誠盛は1949年の<sup>かいつごう</sup>「海烈号事件」で逮捕され、禁固5年の判決が下されますが、1951年12月には在日米軍兵站部の<sup>へいたんぶ</sup>「クリスマス恩赦」で釈放され、直後に自身の<sup>しょうかいせき</sup>蔣介石政権との和平工作にまつわる謀略活動の功績を雑誌に発表しています。



図1 米海軍横須賀基地で働いていた元第三科員  
1950（昭和25）年頃撮影

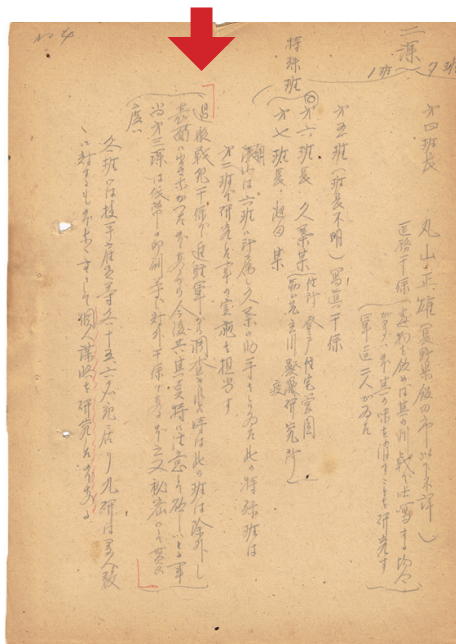


図2 山本憲蔵（左）と阪田誠盛（右）  
山本は第三科長。

1939（昭和14）～1945（昭和20）年頃撮影

## 1980年までの登戸研究所関係者の体験記などが掲載された主な雑誌・書籍

年 代	内容	著者	旧所属
1951（昭和26）年 1月～3月	「風船爆弾」（雑誌『自然』，中央公論社）	高田貞治	風船爆弾開発の協力者（第八陸軍技術研究所，少佐）
1951（昭和26）年 12月	「風船爆弾の気象学的原理」（雑誌『地学雑誌』60-4，中央公論社）	荒川秀俊	第一科嘱託（中央气象台）
1952（昭和27）年 10月	「香港謀略団」（雑誌『話』10月号，出版社不明）	阪田誠盛	阪田機関長，偽造法幣流通の実務責任者
1956（昭和31）年 12月	「準備された秘密戦」（雑誌『週刊読売』臨時増刊号，読売新聞社）	岩畔豪雄	軍事課長，偽札工作（杉工作）の総責任者（少将）
1957（昭和32）年 8月	「風船爆弾は成功だった」（雑誌『週刊新潮』8月19日号，新潮社）	新潮社	
1959（昭和34）年 8月	「日本のスパイ廠第九技研：初めて明らかにする秘密新兵器の全貌」（雑誌『週刊現代』8月30日号。講談社）	講談社	
1961（昭和36）年 11月	「風船爆弾 そのアイディアと威力のすべて」（雑誌『丸』11月号，潮書房）	草場季喜	第一科科长（少将）
1966（昭和41）年 8月	「平和への戦い」（雑誌『文藝春秋』8月号，文藝春秋社）	岩畔豪雄	軍事課長，偽札工作（杉工作）の総責任者（少将）
1967（昭和42）年 9月	「私は帝国陸軍で偽造紙幣を造った：日本最初の本格的な中国紙幣偽造秘話」（雑誌『現代』9月号，講談社）	高松繁	第三科中央班（当時の身分不明）
1975（昭和50）年 1月	「日中戦争経済謀略」（機関誌『陸軍経理学校同窓会誌 若松』新春号，若松会）	岡田芳政	松機関長，偽造法幣の流通責任者（大佐）
	「対支通貨謀略秘話」（機関誌『陸軍経理学校同窓会誌 若松』新春号，若松会）	山本憲蔵	第三科科长（大佐）
1977（昭和52）年 3月	「登戸研究所の秘密」（『陸戦兵器総覧』，日本兵器工業会）	篠田鏡 伴繁雄	登戸研究所所長（少将） 第二科第一班班長（少佐）
1977（昭和52）年 3月	「風船爆弾による米本土攻撃」（『陸戦兵器総覧』，日本兵器工業会）	草場季喜	第一科科长（少将）
1980（昭和55）年 10月	「秘密兵器を作った登戸研究所」（雑誌『歴史と人物』10月号，中央公論社）	伴繁雄	第二科第一班班長（少佐）
	「中国紙幣偽造事件の全貌」（雑誌『歴史と人物』10月号，中央公論社）	岡田芳政	松機関長，偽造法幣の流通責任者（大佐）



## 帝銀事件『捜査手記』別巻より

1948 (昭和 23) 年 4 月 14 日 | 帝銀事件捜査員作成 |  
帝銀事件再審弁護団所蔵

1948 年 1 月 26 日に発生した集団毒殺強盗事件，通称「帝銀事件」の捜査主任・甲斐文助刑事の捜査会議メモより。

帝銀事件について事情聴取をうけた山田桜（元登戸研究所第二科長）が，戦犯関係で GHQ から調査された際には偽札と生物化学兵器の開発については証言していないので注意してほしい，と刑事に訴えている。

山田桜（登戸研究所第二科長）が刑事に話した内容のうち、  
矢印で指し示した部分書き起こし

※（ ）内は資料館補足事項

朝山は（第二科）六班に所属し久葉の助手をしていた  
此の特殊班は

第二班（毒物合成等担当）で研究した事の実施を担当す

「過般戦犯関係で進駐軍から調査された時は此の班は除外し  
表面は出さなかったのであるから今後共其点特に注意して欲  
しいとの事

尚第三課（科）は紙幣の印刷等で対外関係があるので之又秘  
密にして貰い度い」





## 雑誌『週刊現代』1959年8月30日号（複製）

1959（昭和34）年8月30日 | 講談社 | 個人寄贈

「日本のスパイ工廠第九技研：初めて明らかにする秘密新兵器の全貌」所収。元所員らに取材し、登戸研究所の活動を解明した最初期の例。ライター型カメラのケースなど貴重な写真も掲載されている。



## 若松会『陸軍経理学校同窓会誌 若松』 新春号（第75号）

1975（昭和50）年1月1日 | 若松会 | 明和グラビア所蔵

陸軍経理学校の同窓会誌。「特集 謀略戦  
秘話」として、岡田芳政「日中戦争経済謀  
略」・山本憲蔵「対支通貨謀略秘話」所  
収。



## 第一章 登研会の発足と「登戸研究所跡碑」建立

登戸研究所跡碑